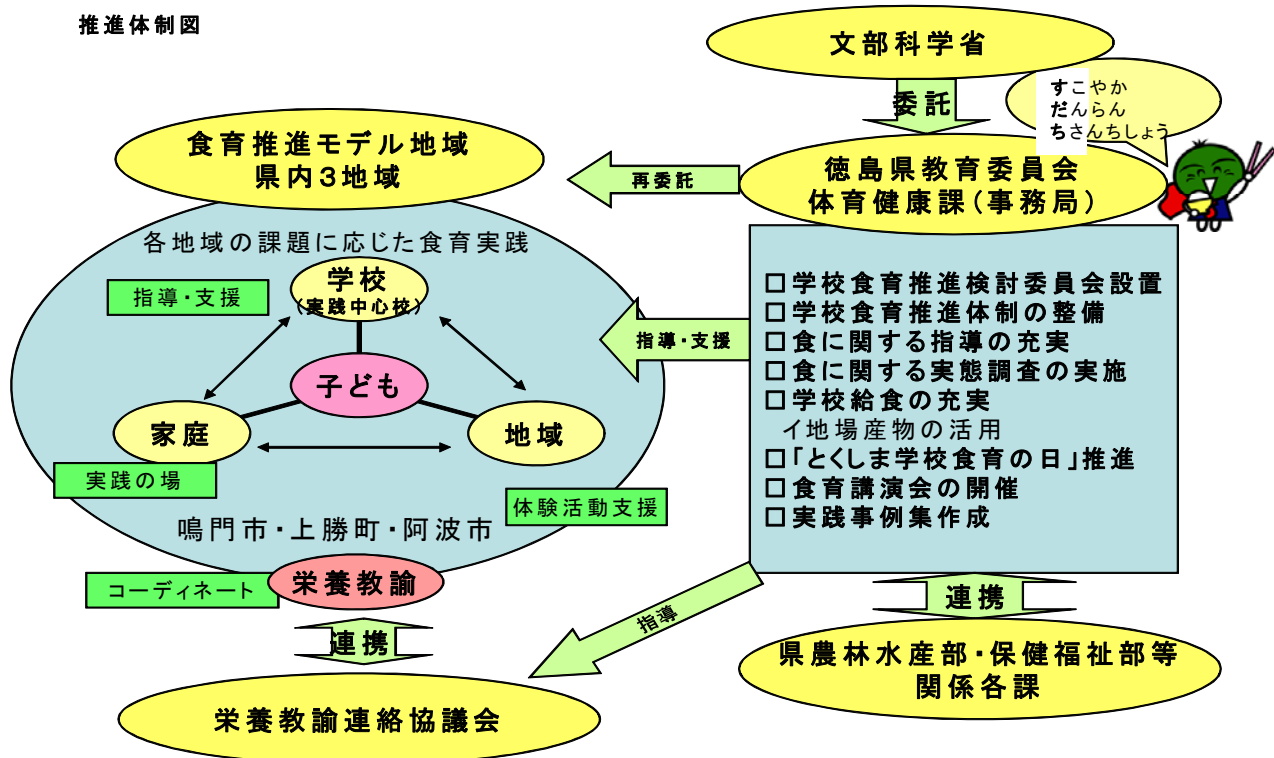


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	徳 島 県
推進地域名	鳴 門 市 上 勝 町 阿 波 市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 学校食育推進体制の整備

(1) 学校における食育推進検討委員会の開催

- 第1回食育推進検討委員会 平成22年10月25日
(県庁9階教育委員室 参加者16名)
徳島県の食育推進の取組と7月に実施した「食に関する実態調査」の集計結果及びワーキンググループ会議の協議内容について報告し、これまでの食育の取組の成果と課題について検証した。
- 第2回食育推進検討委員会 平成23年2月14日
(徳島県婦人会館2階 参加者15名)
「平成22年度の取組」について報告し、「食に関する実態調査」結果を踏まえた、23年度以降の食育推進の在り方について話し合った。



【食育推進検討委員会の様子】

(2) ワーキンググループ会議の開催

○第1回ワーキンググループ会議 平成22年10月18日
(県庁905会議室 参加者14名)

・「食に関する実態調査」集計結果について

○第2回ワーキンググループ会議 平成23年1月18日
・「食に関する実態調査」児童生徒の全体調査結果について

○第3回ワーキンググループ会議 平成23年2月1日
・今後の食育推進の在り方について

「食に関する実態調査」結果について、調査対象別に考察し、課題と成果をまとめるとともに、23年度以降の食育の在り方と具体的な取組内容の検討を行った。



【ワーキンググループ会議の様子】

(3) 各市町村における学校食育検討委員会の設置促進

全ての市町村で設置が完了している。栄養教諭と市町村教育委員会食育・給食担当者が中心になって運営し、地域の実態にあった食育を推進した。

(4) 栄養教諭連絡協議会の開催

栄養教諭を中核とした食育推進の在り方について検討するとともに、栄養教諭の資質向上を図るための研修を実施した。

○第1回栄養教諭連絡協議会開催 平成22年5月21日 総合教育センター

今年度の取組について栄養教諭に周知するとともに、教諭として授業実践を行うための具体的な学習指導の方法について、総合教育センター班長による研修を行った。

○第2回栄養教諭連絡協議会開催 平成22年10月22日 総合教育センター

「食育の観点」を踏まえた生活科、家庭科及び技術家庭科、体育科及び保健体育科の各教科における食に関する指導のポイントについて、総合教育センターの各教科担当指導主事による研修を行うとともに、張野栄養教諭による模擬授業「健康な生活と病気の予防」(中学校保健体育科)の実践と授業研究会を行った。

○第3回栄養教諭連絡協議会開催 平成23年2月18日 総合教育センター

「食に関する実態調査」結果をもとに、本年度の取組と食育の推進の成果と課題を、今後の課題について意見交換を行う研修を実施した。

(5) 「食に関する実態調査」の実施

質問紙 (小学生用)

1 次の質問の当てはまる番号に○を付けてください。

その他のところに○をつけた人は、()の空欄に理由や答えを書いてください。

問1-1	あなたは、毎日、朝食を食べますか。	1 毎日食べる	2 1週間に食べない日が1~3日ある
		3 1週間に食べない日が4~6日ある	4 いつも食べない
問1-2	問1で2・3・4を選んだ人にお聞きします。当てはまる理由を、1つ選んで○をつけてください。	1 時間がありません	2 時間がないから
		3 朝食が用意されていないから	4 足りたくないから
	5 その他()		
問2	今朝の朝食は、何を食べてましたか。当てはまるものを1つ選んでください。	1 主食(ご飯、パンなど)だけを食べた	2 主食と汁物(みそ汁、スープなど)を食べた
		3 主食とおかずを食べた	4 主食と汁物、おかずを食べた
		5 食べていない	
	6 その他(例:パンと生乳)()		
問3	夕食のあとにおやつなどを食べますか。	1 いつも食べない	2 1週間に1~3日食べる
		3 1週間に4~6日食べる	4 毎日食べる
問4-1	きれいな食べ物がありますか。	1 ない	2 ある
問4-2	問4-1で2のきれいな食べ物があると答えた人は、きれいな食べ物を書いてください。		
問5	給食で、きれいな食べ物が出たときにはどうしますか。(高校生は回答の必要はありません。)	1 全部食べる	2 ほとんど食べない
		3 少し食べる	4 食べない
問6	食べ物を残すことをどう思いますか。	1 残すことはよくない	2 きらいだから残さない
		3 残すのも悪い	
問7-1	家族はだれと食べますか。	1 家族そろって食べる	2 家族のどれかといっしょに食べる
		3 ひとり食べる	4 食べない
問7-2	夕食はだれと食べますか。	1 家族そろって食べる	2 家族のどれかといっしょに食べる
		3 ひとり食べる	4 食べない
問8	食事のとき、よくかんで食べていますか。		

【児童生徒用質問紙 No.1】

目的: これまでの食育の取組の成果と課題について検証し、今後の在り方について検討する。

期間: 平成22年7月

対象: 小学5年生、中学2年生、高校2年生の児童生徒とその保護者(抽出)
県内公立学校の管理職(全員)
栄養教諭及び学校栄養職員(全員)
全市町村教育委員会(24)

集計及び分析業務:

四国大学生生活科学部教授

高橋 啓子先生

※ 抽出校以外の全児童生徒については、11月に調査し、7月調査と合わせて集計

テーマ2 食に関する指導の充実

(1) 食育講演会と栄養教諭連絡協議会の開催

○食育講演会

日 時 平成 23 年 2 月 18 日（金） 13：20 ～

場 所 徳島県立総合教育センター

対 象 食育リーダー、学校栄養職員、管理職等学校給食関係者を対象として開催

内 容 「子どもが自ら学びを深める食育の推進」

講師 上智大学総合人間科学部 教育学科 奈須 正裕 先生

総合的な学習の時間を中心に、具体的な実践事例を交えた講義内容により、食育において育てたい学力、教育方法について学んだ。

○栄養教諭連絡協議会での講義

日 時 平成 23 年 2 月 18 日（金） 10:50 ～ 11:50

場 所 徳島県立総合教育センター

内 容 「総合的な学習の時間における食に関する指導のポイント」

講師 上智大学総合人間科学部 教育学科 奈須 正裕 先生

「郷土料理」「朝食」の指導等、栄養教諭から出された日常の食育実践における悩みや課題について、総合的な学習の時間等での探求方法を中心に具体的に学ぶことができた。

(2) 「食に関する指導実践事例集」の作成

- 食育推進モデル地域、県教育委員会の取組を冊子にまとめ、平成23年2月18日の「食育リーダー研修会」で県内全校立学校に配付するとともに、県内全食育リーダーを対象に、食育推進モデル地域である鳴門市、上勝町、阿波市の先進的な取組について実践発表を行い、啓発を行った。

テーマ3 学校給食の充実と地場産物の活用推進

(1) 学校給食における地場産物活用推進

○地場産物活用状況調査の実施（本県独自）

- ・対象調理場：県内の栄養教諭・学校栄養職員配置の調理場
- ・調査期間：6月、11月、1月の連続した5日間
- ・調査方法：食材数ベースで、県内産、国内産、外国産に分けて調査

(2) 学校給食献立の募集「学校給食アイデア料理コンテスト」の開催

県内小中学生とその保護者を対象に、地場産物を活用した学校給食の献立を募集。

○第1次審査 書類審査 平成 22 年 10 月 18 日（月） 県庁 905 会議室

- ・応募総数100点（小学生65点、中学生35点）
- ・審査員 栄養教諭・県農林水産部安全安心農業推進室・保健福祉部健康増進課 他
- ・提出された応募用紙により、最終審査に出場する上位8チームと入賞5作品を選考した。

○第2次審査（最終審査）平成 22 年 11 月 6 日（土）13：30 ～ 四国大学で開催

- ・審査員
審査委員長 四国大学生生活科学部教授 高橋啓子氏
全国農業協同組合徳島県本部副部長、徳島県栄養士会会長、徳島県PTA連合会副会長
徳島県農林水産部安全安心農業推進室長、徳島県教育委員会副教育長、体育健康課長、
財団法人徳島県学校給食会（全8名）
- ・第1次審査を通過した8チームが実際に調理を行い、審査員により審査を行い入賞作品を決定した。
- ・入賞作品、「学校給食アイデア料理レシピ集」として、県内の学校給食調理場及び公立学校関係機関に配付するとともに、徳島県ホームページで公開している。



【実演風景】



【試食審査の様子】



【最優秀賞】

「阿波尾鶏とそば米のグラタン」



【地産地消費】

「みそチキンパリパリサラダ阿波っ子丼」

○成果と課題について

- ・ 応募されたどの献立作品も、徳島県の食材を活用し、徳島ならではの食材のおいしさを引き出すアイデアがよく工夫されていた。
- ・ 最終審査では、参加した家族が協力しながら楽しく調理に取り組む様子が新聞にも報道され、家族がともに食事作りの取り組む楽しさや大切さを家庭に啓発する一助となった。
- ・ 応募数は昨年に引き続き100点に達し、県産食材を使ったたくさんのアイデア料理が集まったが、応募者の所属校に偏りがあった。
- ・ 本コンテスト開催の趣旨について広報の仕方を工夫し、食について家族で関心を持ち積極的に参加してもらえるような魅力ある行事にする必要があった。

(3) 地場産物の活用促進

テーマ4 学校・家庭・地域の連携による食育の推進

(1) 「とくしま学校食育の日～徳島す・だ・ち大作戦～」の推進

- すこやか ～1日3回規則正しく食べよう～
 - だんらん ～家族と食べよう～
 - ちさんちしょう ～地場産物の活用産物を食べよう～
- を、各地で推進。

○毎月19日には地場産物を活用した学校給食を提供するとともに、食育便り等で家庭への啓発活動を行った。



テーマ1～4に共通する具体的計画

○「食に関する実態調査」の実施

7月の抽出調査と県下全体での調査結果（児童生徒対象）を合わせて、本県の食育推進の取組について検討していく。

○栄養教諭連絡協議会の開催

数字で変化のあった事項について

○朝食摂取率

平成 21 年度 毎日食べる（小学 5 年生 87. 9 %，中学 2 年生 80. 0 %）

「平成 21 年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査」結果より

平成 22 年度 毎日食べる（小学 5 年生 90. 0 %，中学 2 年生 82. 6 %）

「平成 22 年度食に関する実態調査」より

○地場産物活用率

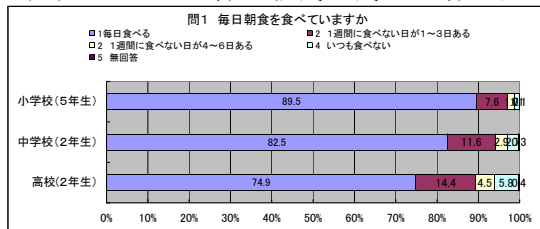
平成 21 年 53. 44 % → 平成 22 年 56. 35 %

事業全体を通じて，特に効果のあった方策等について

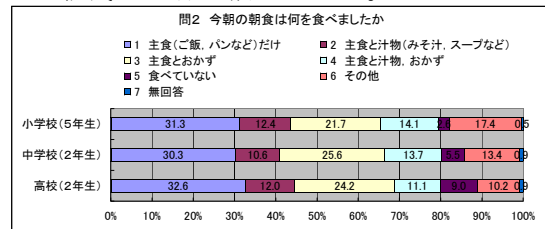
- 対象別（児童生徒とその保護者，管理職，栄養教諭・学校栄養職員，市町村教育委員会）に調査を実施したことで，本県の学校における食育について具体的な成果と課題が明らかになった。

＜児童生徒＞

学年が上がるに伴い朝食欠食率が増加する。

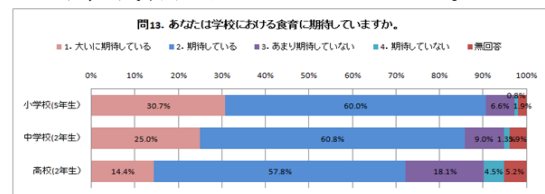
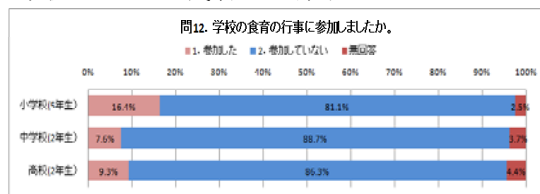


朝食の内容に偏りがある。

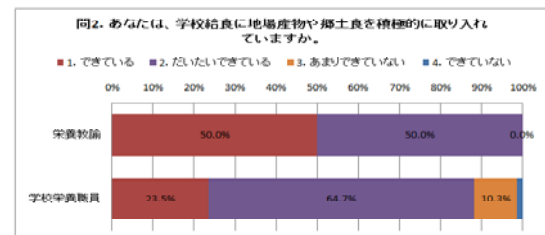


＜保護者＞

学校における食育への期待が大きいにもかかわらず，食育行事への参加が少ない。



- 栄養教諭連絡協議会による研修や，栄養教諭を中心とした食育推進モデル地域での取組を続けてきた結果，栄養教諭の学校における食育推進や地場産物の活用についての意識が高まり，実践に結びついてきていることが明らかになった。



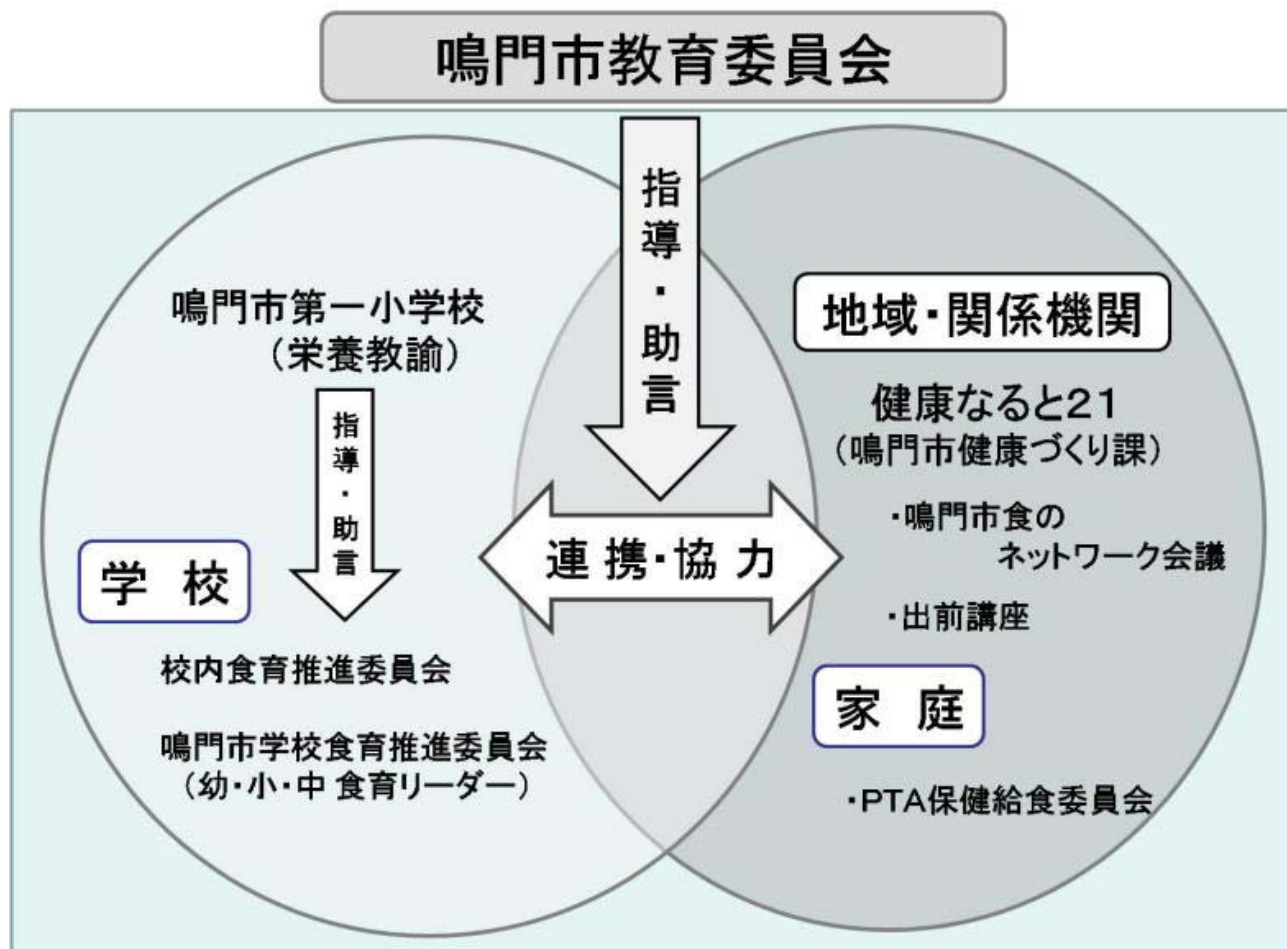
今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 「食に関する実態調査」の集計結果を集計・分析し，「ワーキンググループ会議」及び「学校における食育推進検討委員会」で検証した結果，児童生徒の食生活の実態が明らかになり，特に朝食の欠食については学年が上がるに伴い欠食率が増加するとともに，朝食内容にも課題がみられ，食に関する指導の充実や家庭への啓発を含め，継続的・計画的に進めていく必要がある。
- 保護者の学校における食育への期待が大きいにもかかわらず，食育行事への参加が限られているため，食育行事に参加しやすい環境を整える，参加してもらうための広報を行う，児童生徒を交えた楽しくわかりやすい食育行事を工夫し参加を呼びかけるなど，できるだけ多くの保護者への啓発を工夫し，学校で学んだことを家庭で実践できるような手だてを進めていく必要がある。
- 栄養教諭のみの取組にならないよう，県教育委員会からも積極的に働きかけ，市町村教育委員会と栄養教諭と連携し，市町村の学校における食育をコーディネートしやすい体制作りを考えていく必要がある。

再委託先名

鳴門市

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	学校食育推進体制の整備
(1) 校内食育推進委員会 平成22年4月に「学校における食育推進委員会」を設置し、家庭や地域との連携のあり方について検討をし、今年度の取り組み内容について話し合う。構成員：校長・教頭・教務主任・研修主任・食育主任・養護教諭・栄養教諭	
① 第1回会議 ・開催年月日 平成22年4月27日(火) ・協議内容 平成22年食育推進事業計画の検討	
② 第2回会議 ・開催年月日 平成23年2月10日(木) ・協議内容 食育推進事業実践報告作成・事業効果の検証・評価	
(2) 鳴門市学校食育推進委員会 各校・園の食育リーダーを中心に食育の推進をするための具体的な方策についての研究協議をしている。	
① 第1回会議(全体会)	

- ・ 開催年月日 平成22年6月14日（月）
- ・ 協議内容 規約について
役員の選出について
事業計画（年3回）
食育年間計画について（見直し点・創意工夫した点）
本年度の取り組み事項「早寝・早起き・朝ごはん」・「地産地消」・「鳴門市食のネットワーク会議」
との連携

② 第2回会議（中学校部会）平成22年10月27日（水）

③ 第3回会議（幼稚園部会）平成22年10月28日（木）

④ 第4回会議（小学校部会）平成22年10月29日（金）

各部会の取り組みの中間報告をしている。各校・園の取り組みを知ることにより、自校でも取り組める事柄があり参考になる。

⑤ 第5回会議（全体会）

- ・ 開催年月日 平成23年2月2日（水）
- ・ 協議内容 幼・小・中食育実施状況報告・反省・検討

（3） 鳴門市食のネットワーク会議

① 第1回会議 開催年月日 平成22年5月25日（火）21年度の事業報告・22年度の事業計画

② 第2回会議 開催年月日 平成23年2月25日（金）今年度の事業報告・来年度の事業予定

（4） 鳴門市食のネットワーク会議 実務担当者会

① 第1回会議 開催年月日 平成22年4月12日（月）

② 第2回会議 開催年月日 平成22年5月11日（火）

③ 第3回会議 開催年月日 平成22年6月 8日（火）

④ 第4回会議 開催年月日 平成22年9月 7日（火）

⑤ 第5回会議 開催年月日 平成23年1月12日（水）

⑥ 第6回会議 開催年月日 平成23年3月 9日（水）

・ 食ネット通信・『親子ふれあいクッキング教室』『おやこの食育教室』『食のワークショップ』『出前講座』などの事業について企画し、共に実施している。

テーマ2 食に関する指導の充実

（1） 食育年間計画の作成

食育全体計画・食育年間指導計画を作成している。食育推進の課題を解決するには、給食の時間、家庭科や体育科をはじめとする各教科、総合的な学習の時間において、食に関する指導の充実を促進するとともに、各教科等においても学校給食を「生きた教材」として活用するなど、食育を組織的・計画的に推進する必要がある。そこで、作成した計画に基づいて食育の推進に取り組んでいる。

（2） 個別指導

春の身体測定で肥満度20%以上の児童を対象に保護者に希望をとり、ファイトクラブ（肥満予防教室）をしている。身体測定をした後で、食に関する指導や保健指導・運動指導をしている。夏休み・冬休み中にファイトクラブで行った指導を「ファイトクラブ通信」に書き込み提出してもらっている。

（3） 全体指導

① 給食集会「夏休みだ！元気もりもり集会」7月12日（月）

夏休みも元気ですごせるようにと、「なつやすみ」の合い言葉と栄養クイズをした。

② 保健給食集会「楽しい食育 食生活について考えよう」11月24日（水）

児童給食委員会と児童保健委員会が中心となり、食生活の大切さを訴えた。

（4） 学級指導

① 6年生 予防教育 鳴門教育大学 予防教育科学教育研究センター 内田香奈子先生

「生活習慣病予防を目指した生活習慣（食・運動・睡眠）の改善と育成

② 5年生 学級活動で指導 鳴門には「おいしい」がいっぱい！～地産地消のいいところ～

「鳴門の特産物」「鳴門の海でとれる魚」のポスターとフードマイレージを使用。

③ 4年生 さつまいもの栽培 プランターで土は無農薬の「ミミズフン土」を使用。

④ 2年生学級活動で指導「しょくじごまのひみつをさぐろう」

食事バランスガイドのポスターと冊子を使用。こまを、実際にまわしてみる。バランスがとれていなければまわらないことがわかった。

テーマ3 学校給食の充実と地場産物の活用促進

(1) 給食試食会6月16日(水)

給食を食べておいしかったと言うだけでなく、試食のあと「朝食の大切さについて」話をした。意見交流を行い、「レシピ教えてほしい」「人気のあるメニューの作り方」「野菜嫌いの子どもが食べれるレシピ」などの意見が出された。

(2) 体験型教室「食のワークショップ」

①さつまいもについて 8月28日(土)

育てたさつまいもを生産者の方がていねいにひげをとっている様子を子どもたちはじっと見ていた。生産者への感謝の心が育った。



②わかめについて2月5日(土)

船にいっぱいわかめを乗せて港へ帰ってくる。それを茎から葉っぱだけ切り取る。寒い中とても大変。茶色の生わかめをゆでるときれいな緑色に変わった。生産者の方の苦労が少しですが分かりました。



③「なると学校食育の日」～給食発！ふるさとの味～

9月より毎月19日に実施。(鳴門市全体での取り組み) 鳴門の特産物を中心に地域の特産物を使った料理や、徳島県の郷土料理を学校給食の献立に取り入れることで、「地産地消」及び食育の推進を図るという目的でこれからも子どもたちに地域の良いところを伝えていきたい。

- ・ 地なことわかめの酢の物・ぐちの甘酢あんかけ・マーボーれんこん丼・豚肉と大根のみそ煮・金時豆のすだち酢あえ・ならえ・すずきの西京焼き・ふしめん汁・鳴門鯛のそぼろ丼

テーマ4 学校・家庭・地域の連携による食育の推進

(1) 夏休み親子ヘルシークッキング教室 8月7日(土)

市内小学生親子対象なので栄養教諭・学校栄養職員も参加。今年からは、食生活の改善を推進していく上で、市民の方に情報の発信をしてくれる立場の、食生活改善推進員(ヘルスメイトさん)が中心になってしてくれた。

(2) 出前講座 11月15日(月)

市主催なので栄養教諭・学校栄養職員もスタッフの一員として参加し、共に食育を推進している。今年度は、北灘中学校の「わくわくクッキング教室」に参加した。バランス良く食べようという話を栄養士がし、親子で休日のランチづくりをした。参加者から、良い経験ができ家でも作りたい。お母さんの大変さもわかったし、料理する楽しさも学びました。という感想があった。

(3) PTA保健給食委員会 11月18日(木)

毎年鳴門市学校給食会の見学を行っている。参加者から、衛生に気をつけて子どもたちのためにしてくれていることがわかりこれからもよろしくお願いします。深夜から作業してくださっているのを知って感激しました。という感想があった。

(4) 食育講演会 11月5日(金)

講師 とくしま食育推進研究会 野間智子先生・山本佳苗先生

「ホネホネダンスをおどろう」・5本指の栄養・紙芝居 1・2年生児童と保護者を対象。参観日にしたので保護者の方のたくさん参加があった。

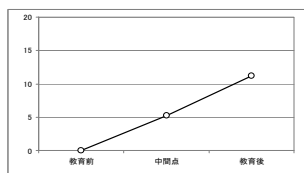
(5) 料理教室 12月4日(土)

PTA保健給食委員会の行事 ～行事食・郷土料理の伝承～・鳴門のいいところをみつけよう・昔からのおせち料理を学ぼう

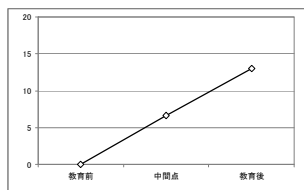
テーマ1～4に共通する具体的計画

○「いのちと友情」の学校予防教育 アンケートの結果より

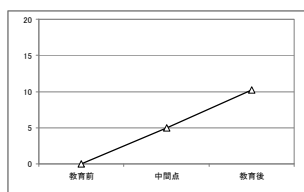
① 自分の生活習慣について、なおしたほうがよいところがわかっている。



② 健康は大切であることがわかっていて、健康になりたいと思っている。



③ 自分の生活習慣をよくするやり方を、実行できる。



・ライフスタイリングブック・お宝ノート(通信簿)をいただき、少しではあるが食を含めた健康に対する意識があがってきているのがわかる。

○先進地視察 和歌山県田辺市三栖小学校

・幼稚園での食に関する指導を行う。

- ・学校・家庭・地域との連携による食に関する指導を行う。
- ・地場産物活用の推進方策を参考に「鳴門市の特産物」のクリアファイル作成。
- ・学校給食に地場産物を取り入れる。

数字で変化のあった事項について

○「早寝・早起き・朝ごはん」のアンケートを21年度と比較すると
毎日食べる 87%が94%に増えている。
時々食べる 13%が5%に減っている。
朝食の内容も主食のみが54%が44%になり、少しではあるが変化がみられた。
○地場産物活用状況調査21年度と比較すると
11月 60.91%が64.75%に増えている。
1月 59.68%が71.83%に増えている。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・「鳴門市健康づくり課」と連携し、市全体の食育に関わり専門的な支援を受けることができた。
- ・鳴門市学校食育推進委員会が設置されており、鳴門市の幼・小・中食育リーダーを中心に共通理解を図りながら、発達段階に応じた食に関する指導ができるようになった。
- ・校内食育推進委員会が設置され、食育推進のための体制が整備された。教職員の間に食育に対して意識が高まり、食育が進めやすくなった。
- ・児童のアンケート等を見ると、児童の「食」への関心は少しずつではあるが高まりつつある。さらに児童が「食」を自分の問題として捉え、幅広い体験活動が続けていく必要がある。
- ・家庭・地域・学校が連携した事業が促進できたことにより、健康増進への意識の高まりとともに、地場産物への関心や地域の食文化への関心が高まり、食育の推進が図られた。
- ・地域の方に教えていただき、さつまいもの植え付けから暑い夏の世話までやり収穫の喜びを体験することにより、食材をより身近に感じ、食への興味関心を高めることができた。
- ・地場産物を給食に取り入れることにより、地域への理解を深めることができた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・学校給食を「生きた教材」として活用を図り、各教科・特別活動(学級活動・学校行事)等と関連させた実践をさらに試み、食に関する理解を進める。
- ・さつまいもや他の野菜作りも体験し、その体験活動を通して食に関する指導を進める。
- ・学校給食試食会は、保護者の参加が少なく、たくさんの保護者が参加できるように、開催日時等を工夫する必要がある。
- ・食育行事・食に関する授業などで、個人差・偏食・アレルギーなど個別指導を必要としている児童がいる。家庭とさらに連携を図っていきたい。